



宅配の様子

取組

宅配事業による買い物支援



◆取組を開始したきっかけ

かつて岐阜や長野からも買い物客が訪れていたという稲武町だが、現在、町外への購買流出が進み商圏人口は非常に少ない。商店主の高齢化や後継者不足も深刻化してきており、「自分がやれるうちはとりあえず店を開けておく」といった消極的な状態の店舗も多い。



商店街の様子

そんな稲武町で宅配事業が行われるに至ったきっかけは、トヨタ生協から、稲武地区での移動販売車による出張販売の申し出を受けたことであ

る。それが実現すれば、商店街はいよいよ存続の危機にさらされる。移動販売車は来るが地元へ商店が一つも無い土地となれば、更なる人口減少も危惧された。移動販売を必要としている買い物難民を救うため、そして商店街の更なる衰退を食い止めるため、稲武商工会自らが立ち上がり、買い物支援事業に着手することとなった。

当初は生協と同じく移動販売車による出張販売を想定したが、その場合ある程度多くの商品を予め仕入れる必要があり、小さな商店では生鮮品等の売れ残りを捌くことが難しいため、現実的ではないと判断された。1年半にわたる検討会の末、地元の商店の規模や体力に見合った方法として彼らを選んだのが、事前に注文を受けた商品を自宅へ配送する宅配事業であった。

PR等の準備期間を経て、平成25年9月2日、宅配事業が始動した。検討を始めてから、約3年後のことである。

取組の概要 >>>>

現在、宅配事業に参加しているのは、生鮮品等を扱うスーパーや日用品店等の12軒だ。各店舗に電話で注文が入り、商工会が商品を取りまとめて軽急便業者か商工会スタッフが配達を行う。代金は配達時に現金で支払えばよく、送料は無料で1点から配達してくれるという、利用者が安心して気軽に買い物できるようなサービスを心がけている。

また、商品を配達したり御用聞きの電話をかける際に高齢者の安否確認も同時に行っており、商業活動だけでなく「地域の見守り」という観点も大事にしている。高齢者世帯をはじめとする地域住民との継続的な交流により、地域におけるコミュニティ機能を高める役割も果たしているのだ。



注文を受ける際に安否確認も行う



現在、この事業について稲武商工会が最も精力を注いでいるのは、チラシ等を使った積極的なPR活動である。電話で注文して商品を届けてもらうというスタイルに抵抗がある人は少なくない。買い物に困難を感じる高齢者がこの事業を利用してみたいと思っても、家族が不信感を覚えて反対するケースもあるという。事業の認知度を上げると同時に、商工会と地元の商店が行う安心な事業であることをアピールし、まずは一人でも多くの人に利用してもらうことを考えている。商工会では月に1、2回手書きでチラシを作成し、新聞折り込みで全戸に配布するほか、チラシを持って町内の老人福祉施設を訪問し、そこに集まる高齢者に直接売り込みを行っている。

12月には住民を対象にアンケートを行い、宅配事業への認知度やイメージを調査した。このアンケートには、折り込みチラシを読まないなどの理由から宅配事業をまだ知らない人に、アンケートに回答することによって事業を認知してもらうという目的も含まれている。また、チラシによるPR活動には稲武町の社会福祉協議会や市役所支所等も全面協力し、安心・安全をアピールするのに一役買っている。

◆取組の効果

前述のようなPR活動により、宅配事業の注文件数は事業を開始した9月の25件から12月には50件、1月には42件と、順調に推移している。利用者からの評判もよく、コンスタントに利用してくれるようになった高齢者も何人かいる。当面は月100件を目標とし、引き続きPR活動に力を入れていく予定だ。

その他に、定期的に作成するチラシが宅配事業そのものだけでなく各商店のPRにも寄与しているという点も注目される。宅配事業に参加する商店の中には、これまでチラシ等の宣伝活動を一切していなかったところも多い。商工会のチラシを通じ、自店について住民に広く知ってもらえるこ

◆今後の課題

現在、宅配事業専属スタッフ(アルバイト2名)の件費や商品の配送費等は県と市の補助金で賄っているが、将来的には自力で運営できる体制づくりをする必要がある。まずは、商工会主導で行っているこの事業を、商店主たちに運営側として積極的に取り組んでもらうことで商工会の負担を減らすとともに、参加する商店からの手数料のみで事業運営が可能となるようにしなければならない。



▲配布されるチラシ

とが、よりよい商品を揃えたり価格やサービスを見直すきっかけになり、店主のやる気向上、ひいては商店の魅力アップにもつながっていると見える。



しかし、それは宅配事業に参加することで自店の売上げが伸びるというメリットがなければ成り立たない。PR活動を行うと同時に、参加する商店を増やし品揃えを充実させることで更なる利用促進をはかり、商店の売上げを伸ばすところまで事業を拡大する必要がある。そして、宅配事業が地域住民と商店双方に必要とされるようになることが最終目標であると言える。

商店街DATA 稲武商工会

所在地 ● 豊田市稲武町タヒラ1-4 アクセス ● 名鉄豊田市駅より約40分(おいでんバス 稲武バス停すぐ) 設立年月日 ● 昭和36年2月18日
 会員数 ● 160名 代表者 ● 大内 政春 TEL ● (0565)82-2640 メールアドレス ● inabu@aichiskr.or.jp